



「但東クラシックバレエ」  
主宰 大西恵子さん  
但東町



毎週金曜日に但東町公民館で行われているレッスンの風景。  
姿勢がよくなることによって、積極的になる子どもたちが多くそうだ。

鏡の前で、指の先から足先までを  
入念にチツクする未来のバレリーナ  
たち。その華やかなイメージとは違  
い、生徒たちは発表会に向けて、厳  
しい練習を一生懸命こなしています。  
但東町公民館事業として始まった  
「但東クラシックバレエ」は、今年10周  
年を迎えました。

「バレリーナはどんなに足のメメが  
つぶれて痛くても、笑顔で踊らなく  
てはいけません。華やかさが目にと  
まりやすいバレエですが、それを支え  
るのは練習につく練習です。努力と  
根性と忍耐が創り出す芸術なんで  
す」とは主宰の大西恵子さん。

## 山あり谷あり+周年 子どもたちの笑顔が支えた 但東クラシックバレエ

子どもたちにも負けない明るい声  
で指導にあたる大西さんは、名古屋  
出身。6歳からバレエを始め、その後  
地元のバレエ団で指導者兼ダンサー  
として活躍されてきました。出産を  
機に、「ご主人が実家のお寺を継ぐこ  
とを決意。そして、但東町へとやちて  
きました。

その後はバレエと無縁の生活が7  
年続きましたが、ある日、思いがけ  
ない言葉を耳にします。「バレエを教  
えてほしい」大西さんが昔、バレエ指  
導者であったことを知った友人の一  
言でした。こうして、「但東クラシック  
バレエ」はスタートします。

「私の住むこの但東町で、またバ  
レエを始められたことを誇りに思っ  
ています。大変なこともありまし  
た。子どもたちの笑顔やバレエが大  
好きという気持ち、そしてご父兄や  
私自身の家族といった多くの方に支  
えられて、10年続けてこれました」

現在は3歳、高校生、さらには大  
人まで30名が受講されています。発  
表会では、『白鳥の湖』くるみ割り人  
形』など、様々な演目にチャレンジ。  
老人ホームへの慰問活動も毎年行い  
お年寄りからは、白鳥さんが今年も  
帰ってきたと、町のアイドルとして  
可愛がられています。

また、地域に根付いた教室作りに  
も力を入れています。

「大変な思いをして、お金のかかる  
バレエをやらせてくれた両親を見て  
きたこともあり、誰もが気軽に習え  
るバレエ教室を作ることが夢でした」

子どもたちが成長していく姿を見  
るのが、一番うれしいと大西さん。  
7月11日には出石町のひびこホール  
で、10周年の記念発表会があるとか。  
そのうれしい瞬間を誰よりも心待ち  
している笑顔が印象的でした。

写真やイラストなどの  
プリント・複製・加工・制作  
から、最新のデジタル印刷まで  
幅広いサービスを提供いたします。

### 街を彩る。

さまざまなイメージの壁に仕える多彩な商品。  
今、街がイメージに変わる。

ラッピングバス

いろいろなイメージの商品が揃っています

**Quick Quality Cost**  
**岩見印刷株式会社**

【本社・印刷センター・マーケティングセンター】  
兵庫県姫路市東町北園2-1 TEL.0796-42-1200 (F)

【ホームページ】http://www.rocksee.co.jp/rocksee/

【E-mail】team@rocksee.co.jp

【印刷センター】TEL.0773-23-6000 (F) 【神戸営業所】TEL.078-294-6600  
【姫路営業所】TEL.075-885-2977

# 古代太鼓踊り

約三十年ぶりに復活した  
竹野町の蓮華寺古代太鼓踊り  
一本のテープが奇跡を起こす

太鼓踊りが奉納される蓮華寺は「但馬高野」と呼ばれた名刹



「先祖が伝え残してきた村の宝を蘇らせた」  
復活の気運は一気に高まり、8名の有志が動き出す。しかし、歌詞や節が分かつて、肝心の「踊り」が分からない。中学生当時に指導を受けた唯一の体験

「ザンザンザカザット」古びたテープから聞こえる、かすかな太鼓の音。毎年、お盆の8月14日に行われる竹野町たけののの太鼓踊りは、この1本のテープによって、約30年ぶりに復活した県指定の重要無形文化財である。この起こりは、平成3年にかつて太鼓踊りの練習を録音したテープが見つかったことに始まる。昭和34年に最後の指導者を失って以来、太鼓踊りは、歌の歌詞や太鼓のリズムを伝え継ぐ人もおらず、断絶状態。当然、復活させようにも不可能であり、村の人々の記憶から消え去ろうとしていた。そんな状況の中、その貴重な録音テープは発見された。

そんな猛特訓の末、平成4年、ついに完全復活を果たした。太鼓踊りの特徴は、その素朴さにあると言われている。但馬5地域(養父市大杉・若杉・九鹿、和田山町寺内、浜坂町久谷)に伝わる、さんざか／さんざか踊り」と同じ系統に属しているが、「さんざか／さんざか踊り」は衣裳や踊りに工夫を凝らすのに対し、太鼓踊りには派手さはなく、衣裳も浴衣のみである。

また、「さんざか／さんざか踊り」が神社に奉納されるのに対し、太鼓踊りは、蓮華寺れんげじの施餓鬼せがき供養の仏事として行われるといった違いがある。その成立や由来については謎が多いが、歌の内容からして、室町時代末期から踊られていたと推測されている貴重な村の宝。現在は、二度と断絶することのないよう、轟地区だけでなく蓮華寺の檀家からも広く保存会の会員を募って、保存に努めている。その熱い思いは、子々孫々まで伝えられていくだろう。

井垣登さん

者も、踊ったのはもう40年前。振りにはほとんど覚えていなかった。恐る恐るテープに耳を傾ける。すると、不思議なことに流れてくる歌に合わせて、体が勝手に動いた。みちりと村の長老にたたき込まれた技は、体に染み込んでいたのだ。その様子を見ていた保存会代表の井垣登さんは、「テープを流すと、あそここの振りはこうだったとか、ここはこうだと思いつくんです。当時の厳しい指導により、体が覚えていた。それからは練習の日々が続きました」



毎年、8月14日の施餓鬼供養の際に奉納される「蓮華寺古代太鼓踊り」。近年では10月下旬に行われる「蓮華寺もみじまつり」でも見ることができる。

## 熱視線

## 但馬の夏を楽しもう!!

きものサはし けいたい

- 着付け指導 ● きものマネージャー
- きものトータルコーディネート

豊岡市福田1887-1 電話 24-9239

フリーダイヤル 0120-529-008

夏こそ、きもんで ときめいてみませんか?  
そんな装いがご提案できます